

● 59 ふくしま復興再生道路整備事業 国道288号野上小塚工区 ●

受賞機関 福島県 相双建設事務所

キーワード ふくしま復興再生道路、大熊町、沢処理対策、トンネル技術専門委員会

全建賞審査委員会の評価ポイント

原発避難解除等区域の復興を担う幹線道路の整備。令和元年東日本台風の影響により、トンネル低土被り部の沢地形に常時流水が確認されたため、学識経験者を招いた技術委員会を開催して対策工を検討し、厳しい地形条件のため人力施工による対策を講じながら、トンネルを供用させた点が評価された。

1. はじめに

国道288号は、郡山市を起点とし、双葉郡大熊町等を経て同郡双葉町に至る延長約68kmの幹線道路であり、東日本大震災及び原発事故に伴う避難指示区域等の復興と、避難された方々の帰還を促進するため、「ふくしま復興再生道路」と位置づけ、県が重点的に道路整備を進めている路線の1つである。

原発立地町である大熊町の山間部に位置する「野上小塚工区」については、平成26年度より延長1,126mの中屋敷トンネルと橋梁3橋を含む2.1kmのバイパス工事に着手し、令和4年7月に開通した。



開通した野上小塚工区

2. 事業の概要

本工区の現況道路は、道幅が狭く、急カーブ・急勾配区間が連続し、大型車のすれ違いが困難であり、安全な交通の確保が課題となっていた。

これらの課題を解決するために、東日本大震災に係る復興事業として、道路改良事業に着手した。

平成30年度から中屋敷トンネルの施工に着手したが、その後の令和元年東日本台風の影響により、2ヶ月後にトンネル掘削の到達がせまっていた低土被り部の沢地形に常時流水が確認されるようになり、急きょ沢処理対策を実施することとなった。

発注者、受注者、設計者、学識経験者等からなるトンネル技術専門委員会を設置して対策を検討した。重機等が搬入できない地形であるため人力施工となること、施工期間や今後の維持管理が困難であることを踏まえ、地質調査で設置したモノレールで運搬可能な「コンクリート封入布とセメント入り土嚢による水路形成」を速やかに実施したことにより、掘削時に沢水の影響は少なく、トンネル全体の工程に遅れが生じることなく完成を迎えることができた。



トンネル技術専門委員会

3. 事業の成果

本事業の完了により、連続した急カーブ区間が緩やかなカーブとなり、大型車のすれ違いはもとより、安全で円滑な交通が可能となった。

さらに、福島県浜通り地方と中通り地方の往来の利便性が向上し、産業振興が期待されるとともに、避難解除区域等の復旧・復興、住民の帰還促進が期待される。

4. おわりに

大熊町は令和4年6月に震災前に町の中心部であったエリアである特定復興再生拠点区域の避難指示が解除となった。

この明るいニュースとともに、「野上小塚工区」の開通が、ふるさとへの帰還を希望している方々への大きな後押しとなることを期待したい。

賛助会員 前田建設工業(株)、福浜大一建設(株)、矢田工業(株)、(株)東コンサルタント、国土防災技術(株)、(株)建設技術研究所、(株)協和コンサルタンツ、セントラルコンサルタント(株)、日本工営(株)、田中建設(株)